

第8期 日本学術会議会員選挙行事予定表

昭和42年4月6日、日本学術会議中央選挙管理会第33回総会が開かれ、次期会員選挙に関する日程予定が決まった。主な項目は次の通り。

42年4月中旬～6月下旬、現有権者の資格審査に関する予備調査。(研究論文等の発表時期が選挙期日を基準にして9年以内の者のみ原則として選挙権があるので、現有権者の中から選び出すこと、但しこの文の末尾にあるようにある種の人々はこの制限に関係せず選挙権がある。)

7月上旬、本人(上の時期が9年をすぎた者)に照会状発送。

9月上旬、第1次資格審査の結果の確認、第8期選挙諸事項の決定。

9月中旬、学協会、研究機関等に対し、周知、依頼の通知発送。

10月上旬、新規登録カード請求受付。

43年3月31日、新規登録カードの受付締切。

5月中旬、第2次資格審査の確認。

6月下旬、選挙期日官報公示。

7月1～10日、有権者名簿の縦覧。

7月11～25日、立候補届、候補者推薦届受付。

8月8日、有権者名簿確定。

11月25日、投票受付締切(選挙期日)。

12月上旬、当選人決定告知、官報公示。以上

尚同時に議題となった上中宗太郎問題については申立人小野周(東大教養)の主張を認めて、上中氏に対して第7期につづく2回の選挙に関して、選挙権、被選挙権を停止することに決定した。

附、有権者の資格審査基準要旨

有権者の資格は次の各項により審査される。

1. 学歴または研究歴—大学卒業後2年、短大・高専(旧高専を含む)等卒業後4年、又は研究歴5年以上。

2. 研究論文または業績報告—主として全文またはその内容を明らかにする概要等が著書として発表されるか又は学会誌、研究機関の機関誌に発表されたものであるが、口頭による発表はその内容が学会誌、機関誌等に掲載発表されて明らかにされたもの。(この場合は当該誌を登録用カードに添えて提出されなければならない。)

3. 研究論文等の発表の時期—選挙期日の前9カ年以内であること。但し、次に掲げる者については9カ年を越えてもさしつかえない。

(1) 国公立大学に勤務する講師以上の教職にある者。(2) 日本学術会議会員および、その職にあった者。日本学士院会員、大学名誉教授。(3) 国公立研究所等の研究機関に研究員として勤務している者。(4) 博士の学位を有し、しかるべき学会に所属する者。

(青木)

雑 報

「オリオン領域」の勉強会 3月29日(水)、30日(木)、31日(金)の3日間、東大・理・天文学教室で、星の形成とHII領域の進化についてオリオン領域をテーマに勉強会が行われた。東大の大学院生が計画をして、京大の大学院生数名を加えて、十数名の小人数で行われたが、天文学会から援助を受け、又公開で行われたのが特徴だった。ここ2,3年、研究会・勉強会が沢山開かれるが、参加者が多過ぎると散まんになるといわれる。オリオンの勉強会は、テーマが具体的で直観的だったこともあって主催者は、成功と自画自賛していた。

(蕙)

「地球及び惑星の内部構造の研究会 3月16日(木)、17日(金)、18日(土)の3日間、京大・基礎物理学研究所で、物性論、地質学、天体物理、放射化学、地球物理、地球化学、原子核、水質化学などの各分野の研究者約45名が、太陽系の起源をテーマとして研究会を開いた。ここでは、1966年1月12-15日に行われた第1

回の研究会に提出された問題点及び太陽系生成過程の大きな仮説を背景として、討論された。

まず、太陽が星間物質から重力収縮をして、主系列に達するまでの 10^7 年の間に一度 10^8 年間位、現在の明るさの1万倍の明るさに達したことがあるという「Hayashi Phase」の新しい計算結果が発表された。それに対して、隕石の岩石組織に見られるコンドライトなどの複雑な構造から隕石のできた歴史を考えると、次のような過程が推定されるという。即ち隕石は一度 1300°C 位で熔融し、 1200°C 位に10年位かけてゆっくりと冷却して磁晶を生じ、更に 1000°C 位に冷えてから破砕されてコンドライトができ、次に集合してその後 500°C 位に加熱されて変成作用を受けて酸素を逃がし還元析出、そこで再び破砕又集合と進み隕鉄と石質隕石の分離が起って、又破砕されたというように何回も何回も劇的な事件の中に身を委ねたと考えられるという。太陽系の中で彗星は、固体と気体の共存系として、又 10^8 - 10^9 年の短寿命の天体として、重要なサンプルである。過飽和のガスに包まれた固体微粒子が付着と蒸発の釣合でより大きな固体粒子に成長する条件の計算が行われた。宇